

ボーイスカウト東京連盟
あすなろ地区 広報誌
第40号
2022年(令和4年)
9月8日
普及委員会

ジャンボリー地区派遣隊壮行会

7月30日(土)、第18回日本スカウトジャンボリー(18NSJ)あすなろ地区派遣隊の壮行会が杉並第十小学校の体育館で開催され、派遣隊の指導者、スカウトと保護者、奉仕スタッフや、“ジャンボリーサマー2022”に参加する各団の指導者とスカウトが参加しました。

主催者の佐藤地区委員長から参加者を激励する挨拶のあと、中野区長の酒井直人さん、杉並区子ども家庭部児童青少年課長高倉智史様からご挨拶をいただきました。

18NSJに参加するスカウトを代表して、地区派遣隊キツネ班の櫻井大空さんから決意の言葉がありました。

参加者には18NSJネッカチーフ、記念ワッペン、リストバンドなどが配布されました。



佐藤地区委員長の挨拶



来賓の中野区長酒井直人さんの挨拶



杉並区子ども家庭部高倉課長さんの挨拶



プロジェクトで18NSJの概要を紹介



あすなろ地区派遣隊の各班と、ジャンボリーサマー参加隊の紹介



キツネ班櫻井大空さんの決意の言葉



ジャンボリー参加記念品の配布



あすなろ地区派遣隊のメンバー

ジャンボリー終了式で活動報告、表彰

9月3日(土)、18NSJあすなろ地区終了式が高円寺学園の小アリーナで開催され、あすなろ地区派遣隊の指導者、スカウト、奉仕スタッフ、「ジャンボリーサマー2022」参加団の代表が参加しました。

地区を代表して佐藤地区委員長が挨拶し、「ジャンボリーサマー2022」に参加した各団の隊が紹介され、参加隊は順に各隊のキャンプの様子を上映しながら報告しました。あすなろ地区派遣隊は、杉並11団の斉藤敦さんと今井文香さんが代表して、活動状況を映写しながら交替に報告しました。

今回のジャンボリーでは「日本一プログラム」として、全国各地で18NSJに参加した班により3種の競技が共通ルールで行われ、記録が登録されました。

あすなろ地区の参加班の記録は、全国各地の班の僅かな差の記録が伯仲する中でしたが、

「わが旗かざし、班旗立て」は、杉並13団ハヤブサ・タカ合同班が2分30.4秒で全国第89位

「ジョン・ブラン手旗信号リレー」は、地区派遣隊のイーグル班が18分21.0秒で全国第74位になったことが紹介され、それぞれ代表のスカウトが壇上にあがり、弥栄の祝声を受けました。

あすなろ地区派遣隊隊長を務めた小倉栄一隊長は欠席のため、升岡節子副長へ地区より感謝状が贈呈され、佐藤地区委員長より「派遣隊の班のメンバーが時には集まって懇親を深めるなど、今回のジャンボリーで結ばれたスカウトの絆を大切にしてもらいたい」との挨拶のあと、派遣隊の解散宣言がありました。

最後に伊佐野協議会長の挨拶のあと、閉会になりました。



佐藤地区委員長の挨拶



中野8団の活動報告



地区派遣隊の活動報告



ジャンボリー日本一の記録に弥栄！



派遣隊隊長に感謝状授与



地区派遣隊の解散宣言



伊佐野協議会長の挨拶



地区派遣隊メンバーの最後の記念撮影

ベンチャーフォーラムの開催 新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか

7月24日(日)、ベンチャーフォーラムが阿佐谷地域区民センターで開催され、9名の参加者は2つのグループに分れました。

フォーラムのテーマは「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」で、最初に儘田哲夫さん(杉並6団B S隊副長)から、SDGsの取組みのため、化石燃料の展望をもとにした講演がありました。

各グループはこれからの100年に重要だと思ったことを話し合い、自分たちで何ができるかを考え、さらに「自分たちでできることの計画」を具体的に作成しました。

各討議では、自由な発想を大切にして、他人のアイデアを否定せず、たくさんのアイデアをメモし、似通ったアイデアはグループ分けして、自分たちには何ができるかプロジェクトを決め、企画書としてとりまとめました。

フォーラムの司会や、各グループを支援して助言する指導者は、奉仕のローバースカウトが担当しました。

フォーラムではこれからのスカウト活動の展開について討議する中で、同年代スカウトとの交流によってお互いの理解を深める機会にもなり、幅広い社会性を身につけることにもなりました。

参加したスカウトからは、SDGsの講演は学校とはまた違った視点で見られて新鮮だった、地区のスカウトと一緒に考え、討議することができてうれしかった、SDGsを自分のこととしてとらえられた、などの前向きな感想がありました。

9月に開催される東京連盟ベンチャーフォーラムには、杉並11団の高田庚樹さんと高木瑞希さんが参加することになりました。



参加のスカウトと奉仕のローバー



これからの100年に重要だと思ったこと、アイデアを書き出し



ポストイットに記された多くのアイデアを分類、整理して発表



グループのプロジェクトを決定して内容を取りまとめ、発表

菊スカウト章、隼スカウト章 伝達式

7月11日(月)の地区委員会開催に先立ち伝達されました。

菊スカウト章 杉並12団 石澤 彰人さん
 隼スカウト章 杉並12団 橘田 哲一さん



菊スカウト章 伝達式

7月30日(土)に開催された18NSJあすなろ地区壮行会は、第一部を伝達式、第二部を壮行会として、菊スカウト章の伝達が行われました。

受章したスカウトは一言ずつ受章の喜びや今後の決意を発表しました。

菊スカウト章 中野 8団 村松 泰地さん
 // 中野 11団 金田一 隼さん
 // 杉並 5団 豊田 真夢さん
 // 杉並 11団 高田 庚樹さん



富士スカウト章記念品の授与

8月15日(月)、地区委員会の開催前に富士スカウト章記念品が杉並11団の阪之上史佳さんに授与されました。



“わくわくフィールド” を開催

杉並4団BS隊隊長 渡邊大祐

杉並4団は姉妹団のガールスカウト東京都第57団の応援も得て、7月10日(日)、“わくわくフィールド”を柏の宮公園で実施しました。

定員50組のところ多くの応募があり、結果として70人以上の地域のお子さんに参加してもらうことが出来ました。

私自身は、ボーイスカウトが“わくわくフィールド”の活動を実施するメリットは2つあると感じています。

1つ目は楽しいだけでなく、地域のお子さんがスカウトのお兄さん、お姉さんとのコミュニケーションが取れることで、世代の違う人たちと話したり、遊ぶ事で、学校や日常では味わえない経験、学びが得られると思います。

2つ目がボーイスカウト活動を知ってもらい、本当は野外活動が好きなのに、選択ができない結果を生まないように、人生の選択肢を増やしてもらえることで、そのためには、地域への認知活動を広げていくべきだと考えます。

今回の各ポイントの巡回は、各自が自由に移動するスタイルでなく、子供たちがローバーのお兄さん、お姉さんとお話する時間を多く取れるように、4つのグループで一緒に行動するスタイルにしました。

私は前回のわくわくフィールドではブース担当でしたが、ブース内での関わり合いは時間が限られていて、「もう少し時間があれば、もっとコミュニケーションが取れたのに」と感じていました。

今回はグループ制にしたことで、ブース間の移動の際に、グループ担当の指導者と子どもたちが手を握ってお喋りして歩いたり、隙間の時間で喋りしている姿が見られました。また、子供だけでなく、保護者の方とグループ担当がスカウト活動の内容や、どんな所に面白みがあるのかについて話していることも印象的でした。

スカウト活動の説明は社会人の指導者がするよりも、現場で活動している大学生のスタッフから聞く生の声は、保護者の方にも新鮮に届いたと感じます。

時節柄マスク越しの会話で、2時間ほどでしたが、ボーイスカウトをしているお兄さん、お姉さんを見てもらう事で、よりボーイスカウトの活動を理解してもらえたと思います。この活動は、私たち指導者にとって、原点に立ち返れる活動だと思います。

私がスカウト活動を行なっている理由は、子供達が楽しい笑顔になれる機会を作れるからです。今回、70人以上の子供達を笑顔にできた考えると、非常に達成感があり、改めて活動の目的を実感させられました。

次回は来年1月に実施します。またたくさんの笑顔を配れるよう、頑張りたいと思います。



受付いたらここに集合！



これから始まるよ



こんな重い背負ってるの…？



薪はこうしてだんだん大きく…



新聞紙ボール作り



うまく当たれば高得点だぞ



自分で結んだ「輪」で競え



牛乳パックを切って、お絵かきして



戻れ ブーメラン

日本スカウトジャンボリー 特集

18NSJが開催されました

▶初めての分散型で開催

本年はボーイスカウト日本連盟創立100周年にあたるため、「第18回日本スカウトジャンボリー（18NSJ）」は100周年記念大会として、8月5日（金）より10日（水）まで開催されました。

コロナ感染防止のため、今回のジャンボリーはこれまでの1か所に集まる形式でなく、東京の中央会場のほか、全国各地のサテライト会場、「ジャンボリーサマー2022」を結びました。

「ジャンボリーサマー2022」は本年の夏休み期間に県連盟、地区や隊などで行うキャンププログラムを18NSJとして認定したことで、約250箇所、約14,000名が参加して開催されました。

7日に開催された「ジャンボリー大集会」では、各地で開催されたサテライト会場やキャンプサイトをインターネットでつなぎ、「離れていてもつながる」新しい形のジャンボリーとなりました。



▶大会のテーマ

大会のテーマは「100+～自分のfを探せ～」で、これまでの100年間の歴史を振り返り、これからの100年を築き上げる契機となるよう、大会に参加したスカウトたちにより、自ら考えるf（future, friend, family, faith, fun, face, fuji など）を探して未来に向かい、スカウトの自主性を発信していく姿がテーマになりました。



▶あすなろ地区の派遣隊

あすなろ地区派遣隊は、指導者4名と、各団のボーイスカウトとベンチャースカウト21名が3班を構成して参加しました。

派遣隊は8月5日（金）～7日（日）は大田ベースの平和島公園キャンプ場で活動し、7日（日）のジャンボリー大集会後の夜に八王子ベースへ移動して、8日（月）～10日（水）は八王子ベースのひよどり山キャンプ場で活動しました。

参加したスカウト、指導者の方々から多くの写真を提供いただき、派遣隊の升岡節子副長、相澤岳琉副長から活動の様子を伝えるコメントを寄稿いただきました。

▶ジャンボリーサマー2022に参加の団

地区内の以下の各団は、「ジャンボリーサマー2022」として、全国共通のプログラムを取り入れた5泊6日のスカウトキャンプを開催し、18NSJのネッカチーフを着用して活動しました。

「ジャンボリーサマー2022」に参加した各団の活動は、地区派遣隊の活動報告のあとに記しました。

杉並3団 8/5-10 山梨県 忍野村 昭福荘（杉並3団、5団の共同開催）

杉並5団 8/5-10 山梨県 忍野村 昭福荘（ " " ）

中野8団 8/9-14 長野県 信州高遠青少年の家

中野11団 8/9-14 東京都 新島 羽伏浦キャンプ場

杉並13団 8/9-14 山梨県 大月河野園

▶地区の記念ワッペン

あすなろ地区では18NSJを記念して、あすなろの葉と三本指の図柄を配した「18NSJ地区記念ワッペン」を作成しました。



8月5日(金) 大田サイトに入場、設営、開会式



▶ジャンボリー中央会場に到着

派遣隊のメンバーは京急の大森海岸駅に集合し、大きなリュックをかついで、ジャンボリー中央会場の平和島公園キャンプ場に向かい、会場入口のゲートを通して、あすなる地区に指定されたテントサイトに入場しました。

隣接する北多摩地区に挨拶して設営を開始し、狭いサイトでしたが工夫することで、全員分のテントを張ることができました。



▶開会式

中央会場の大田ベースに参加した各地区派遣隊の全員が集まり、18NSJの開会式が行われました。



8月6日(土) プログラム



朝食



点検

▶信仰奨励プログラムに参加



「信仰奨励プログラム」として、各自が信仰する教宗派の宗教儀礼が開かれる場合は積極的に参加して、教えについての理解や信仰心を深めることが奨励されています。

また、班や隊では「信仰奨励プログラム」として、毎日朝礼後に、自分たちで「スカウトOWNサービス」を行い、信仰心を深めたり、スカウトであるために必要なことを考えました。



祈りの集い

▶交流プログラムでスカウトグッズの交換

サイト内の他地区のスカウトと、ワッペンやチーフリングなど、スカウトグッズを交換しました。



▶ボッチャで好成績

大田区ボッチャ協会の方にボッチャのルールなどについて学んだ後に、実際に総当たり戦で試合を行いました。試合ではあすなる地区派遣隊は2位と4位を取ることができました。

ボッチャは、初めに投げたボールが基準となり、それにどれだけ近づけられるかというゲームで、ルールはカーリングに似ています。



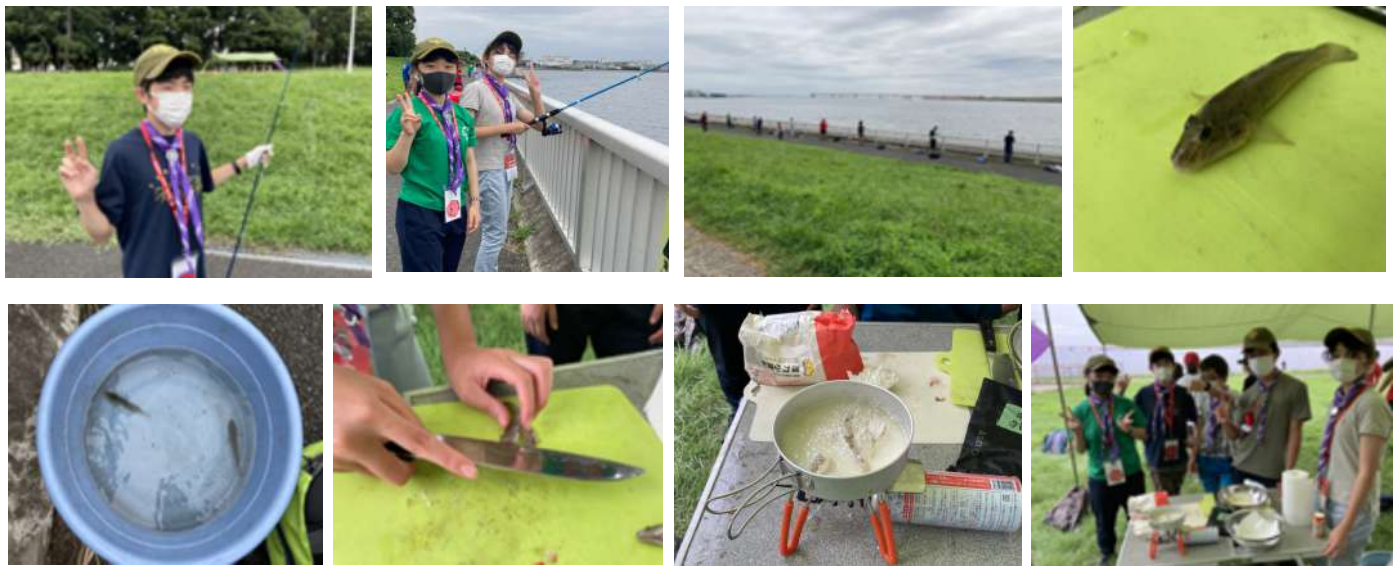
交流プログラム「ボッチャ」に挑戦

▶ハゼを釣って料理

京浜島海浜公園でハゼ釣りをして、ハゼを2匹釣ることができました。

釣ったハゼは自分たちで三枚におろし、衣をつけて揚げて美味しくいただきました。

自分で釣った魚を自分で調理し食べるという貴重な体験をすることができました。



▶モルックを投げて得点

「モルック」はフィンランド発祥のスポーツで、1～12の番号が書かれたスキttlと呼ばれる12本のピンをモルックと呼ばれる20cmほどの木製の棒を投げて倒し、倒れたスキttlに表示された点数や本数が得点になります。



本部でモルックの申込

スキttlを取り出し、決められた順に並べる

モルックを投げて挑戦

▶焼印でウッドタグ作り

薄い木片に焼印を静かに押し当て、金具を取り付けると「ジャンボリー大田ベース」の文字、図柄が刻まれた記念の「ウッドタグ」ができあがりました。



▶水陸両用バスでベイエリアを見学

キツネ班はお台場の東京テレポート駅から、東京港と臨海副都心エリアを周遊する水陸両用バスに乗車しました。バスが陸から海に入る時の水しぶきは迫力があり、海と陸からの東京の景色を楽しみました。お台場ではそびえたつ巨大なガンダムに会うことができ、ショッピングモール内を散策しました。

お台場への行き帰りにはトングを持参し「SDGSチャレンジ」として環境美化の奉仕を行いました。



▶旧東海道をめぐるポイントラリー

京急の北品川駅から平和島キャンプ場まで、旧東海道の史跡をめぐるポイントラリーに参加しました。

旧東海道に点在する江戸時代の史跡や、しながわ水族館などに設定されたチェックポイントを地図とポイントの写真を頼りに探しながら進みました。8.75kmの長距離ハイクのため、休憩中に疲れて寝てしまうスカウトもいました。

今回のポイントラリーは、事前に設定されたチェックポイントが地図上に表示される「NaviTabi」というアプリを使用して行われました。



▶ 3地区合同のキャンプファイア

あすなる地区、世田谷地区、北多摩地区の3地区合同で交流キャンプファイアを実施しました。

キャンプファイアのプランは、あすなる地区と世田谷地区のベンチャースカウト計13名で、どんなゲームをしたら盛り上がるかを事前に検討し、「猛獣狩り」「なんでもバスケット」「団結踊り」などが実施されました。

最後にはスカウトグッズの交換会を行い、他地区のスカウトと交流することができました。



8月7日(日) ジャンボリー大集会、八王子サイトに移動

本日はジャンボリー大集会のあと、夜に八王子ベースのひよどり山キャンプ場へバスで移動するため、朝の点検ではリュックに個人装備を収納した状態での点検になりました。

朝礼のあと、ジャンボリー日本一プログラムへの挑戦、ジャンボリー大集会へ参加しました。

昼食は炊事不要のマクドナルドのハンバーガー、夕食は弁当のメニューでした。



▶わが旗かざし「班旗立て」



「ジャンボリー日本一プログラム」はジャンボリー期間中、全国の参加班やグループが同じルールで競い、18NSJアプリから記録を報告して順位を決めるもので、派遣隊の各班も「ジャンボリー日本一」の各プログラムに挑戦しました。

参加はボーイスカウトに限られ、ベンチャースカウトは参加出来ません。

「班旗立て」の制限時間は25分で、1.5mの棒3本を1mロープ4本でつなぎ合せ、班旗を上端に取り付けて、張り綱4本とペグで3m以上の高さに自立させ、「できました！」の完成宣言から15秒間の自立が条件です。

各班は地蔵山キャンプ場での訓練キャンプで練習していたため、手分けして作業し、班旗は倒れることなく高々と自立しました。

「ジャンボリーサマー2022」に参加の杉並13団ハヤブサ・タカ合同班は2分30.4秒の記録で、全国89位になり、1位は大阪豊中の団で僅か0分29秒でした。



ゆるまないように結索



棒の端に班旗を取り付け



ペグ打ち

班旗は見事に自立



▶火を絶やすな「火おこし」

参加の班は落ち葉や落下した枝、木の皮など、加工していない「自然の樹木」の薪と焚きつけをジップロック一枚に入るだけ用意し、競技中は薪を刃物で切れないことになっています。

スタートの合図とともに、準備されたブロック、金網、麻なわ、マッチ、火ばさみ、防火用水などを競技エリアに運び、指定された形に組み立てたかまどに薪を積み、マッチは2本以内で火をつけます。うちわや火吹きは使えず、口で吹くことのみOKなので上手に火を育て、ブロックの上部に張った麻なわを焼き切るタイムを競いました。

ブロックの中段に金網があるため薪は高く積むことができず、積み方に工夫が必要で、麻なわも太いため、焼き切るのに時間がかかりました。



かまどの組み立て



口で吹いて火おこし



麻なわに火がついた…

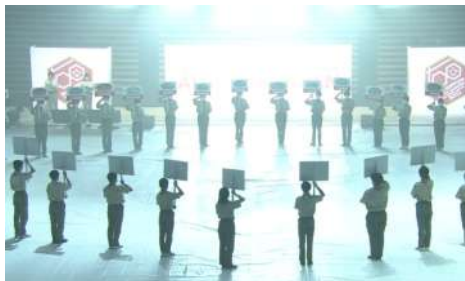
▶ ジャンボリー大集会に参加

ジャンボリー大集会は大田区総合体育館で開催され、バスで会場に向いました。

開会前の小池百合子都知事の挨拶では、ご自身はガールスカウトの経験があり、「もやい結びから火起こしまでの経験が今に生きています」とのお話をされました。

開会は神奈川連盟のフラグの演技から始まり、静岡県連盟マーチング鼓隊の演奏のあと、秋篠宮皇嗣、同妃両殿下がご臨席されて、スカウトに向けたお言葉をいただきました。

全国の県連の連盟章を記したプラカードを掲げた入場が続いて、インターネットを使って、各地のサテライト会場やキャンプ中のスカウトが画像で結ばれ、ジャンボリーに参加している全国のスカウトと時を同じくして、仲間としてのつながりを実感できました。集会はYouTubeで同時配信され、その画面の一部を紹介します。



すべての県連盟が集合

岡山の会場から中継

アイドル「超ときめき宣伝部」も参加

▶ 八王子ベースにバス移動

ジャンボリー大集会の後、北多摩地区とともにバスに乗り込み、八王子ベースのひよどり山キャンプ場に移動しました。バスの車内で支給されたお弁当を食べ、到着後の設営に備えました。

ひよどり山キャンプ場には20時30分頃に到着し、ISTの方からキャンプ場の利用方法の説明を受けました。

暗い中の作業でしたが、ISTの方々の配慮で車のヘッドライトなどでサイトを照らしていただき、各自のソロ Tent や汚水穴を掘るなどの設営を行いました。



8月8日(月) 野営生活プログラムと交流プログラム

▶ラフティングで川下り

イーグル班は御岳溪谷のラフティングを体験しました。

乗船前にパドルの使い方、川に落ちた時の対応方法や救命胴衣の着方などについての説明や練習がありました。

メンバーは水しぶきをあげながら急流に挑戦し、流れのゆるやかな所はのんびりと景色や川の音を楽しみ、途中にある大きな岩から飛び込んだり、体を浮かせて川の流れに身をまかせたりしました。



▶アマチュア無線で交信

ジャンボリーの楽しみは、多くの仲間と交流ができることです。

会場ではアマチュア無線を体験でき、遠く離れた場所でキャンプ中の仲間と交信して、班や仲間を紹介したり、活動の様子などの情報交換をしました。



無線体験の申込み



アマチュア無線を体験



マイクを使って交信

▶投石機のパイオニアリング

パイオニアリングでは投石機を作成しました。

丸太で枠を組み立て、上部の竹の端に箆を付け、4チームで球の飛距離を勝負するプログラムで、どのチームも20m前後の距離を出していました。

炎天下での作成だったため、日陰で休憩をしながらの作業になりました。



▶大人数のキャンプファイア

この日はあすなる地区、世田谷地区、北多摩地区、南武蔵野地区、多摩西地区の5地区の約120人で交流キャンプファイアを実施しました。

前回のキャンプファイアと同様に、あすなる地区のベンチャーを中心に、参加地区のベンチャーでどんなゲームをしたら盛り上がるのかを考えて実施されました。

キャンプファイアではジャンボリー大集会に出演したアイドルの「超ときめき宣伝部」の「すきっ！」という曲のダンスの披露や、「アブラハム」などのゲームを行いました。

後半は2グループに分かれてゲームをしたり、スカウトグッズの交換会を行ったりしました。

120人という大人数でのキャンプファイアは、よい思い出となりました。



8月9日(火) サテライトプログラム、閉会式

▶焼きたてパンとスモークを堪能！

キツネ班は「キャンプで簡単、焼きたてパンとスモークを堪能！」のプログラムに挑戦しました。

焼きたてパンは強力粉、ドライイーストなどを水で溶き、メスティン（万能クッカーとも呼ばれる箱型の飯ごう）に入れ、日にあてて一次発酵させ、その後ガス抜きをして二次発酵をさせます。完成した生地をメスティンに入れ、固形燃料を使って焼きました。

スモークは段ボールの箱を組み立てて中間に金網を置き、うずらの卵やソーセイジの食材を乗せ、燻煙材に着火して作りました。チップの香が染み込んだ味が楽しめました。



▶高尾山にハイキング

高尾山は登るだけでなく、ボーイスカウトと縁のある高尾山仏舎利塔をめぐるハイキングでした。

高尾山頂上ではかき氷を食べたり、キノコ汁を食べたりと、スカウトは思い思いに過ごし、下山の時には「グリコ遊び」などをして、ハイキングを楽しんでいました。

下山後は高尾山口駅近くの京王高尾山極楽湯でハイキングの疲れを取り、ひよどり山キャンプ場へ戻りました。



▶カヤックの体験

カヤック体験は、日向和田駅近くの多摩川で行われ、パドルの使い方の練習から始まり、カヤックへの乗り方や操縦方法、カヤックを回転させる技などを学びました。

カヤックの指導をされた方は、カヤックのギネス記録保持者で、世界レベルの技なども披露して頂きました。

また、カヤックの乗り方だけでなく、川で溺れている人を救助する方法や、救助される側の方法、救助ボートへの乗り方なども学ぶことができ、有意義な時間となりました。



▶交流プログラム

「東京ローバー会」の交流プログラムで、白紙の名刺に名前と願い事を書き入れて、キャンプに参加のスカウトと名刺交換をしました。

また世界平和を願うメッセージをメッセージボードに書き入れました。



▶ジョン・ブラン「手旗信号リレー」

手旗信号を受信して、送信する手旗信号による班対抗の伝言ゲームで、発信地と2か所の中継地、受信地の4つのポイントを設定して、スカウトが配置されました。

各ポイントは30m以上はなれ、発信地のスカウトは渡された問題文を手旗信号で中継地を通して送り、受信地のスカウトは問題を解いて回答しました。

発信地は第一中継地が見えますが、第二中継地と受信地は見えません。同様に第一中継地は発信地と第二中継地は見えますが、受信地は見えないように設定されました。

普段の集会で、手旗の発信や受信を練習する機会が少なかったスカウトもいるため、参加した各班にとっては難しい競技でしたが、イーグル班は18分21.0秒で、全国74位になりました。



競技の説明



手旗で発信



受信した信号を中継



▶キャンプクラフト バンブー・ドラゴンフライ

太い竹を割って、バンブー・ドラゴンフライ（竹トンボ）を作りました。自分の加工の腕前で竹とんぼの飛距離が決まるため、みんな慎重に竹の削りだし等を行いました。



▶野営生活

今回のジャンボリー会場になったひよどり山キャンプ場の様子をご紹介します。

ひよどり山キャンプ場はボーイスカウト専用のキャンプ場のため、常設のシャワー等はそろっていません。そのため今回のジャンボリーでは、水の入った容器を圧縮することでシャワーのように水が出てくる装置が使われました。また、シャワーの排水設備の関係で、石鹼類は使用禁止でした。

しかし、ひよどり山キャンプ場は東京とは思えないほど自然が豊かなキャンプ場で、最終日の朝、あすなる地区のサイトにクワガタが紛れ込んでいました。このように大田ベースとは違い、自然を感じるベースとなっていました。



今回使用されたシャワー



多くのテントが並びました



サイトに紛れ込んだクワガタ

▶ジャンボリー閉会式

中央会場の八王子ベースに参加した各地区派遣隊の全員が集まり、長かった18NSJの閉会式が行われました。

閉会式では「日本プログラム」の競技を中央会場で争う「東京プログラム」の表彰があり、あすなる地区は「ジョン・ブラン手旗信号リレー」で、ウマ班とイーグル班がそれぞれ2位と3位で表彰されました。

また各地区の代表がパイオニア章の表彰として記念チーフリングが授与され、あすなる地区はキツネ班ベンチャースカウトの高木瑞希さんが代表して受け取りました



ウマ班



キツネ班



イーグル班

8月10日(水) 撤営、会場を退場

ジャンボリー最後の朝礼が終わり、撤営を行いました。素早く片付けて解散に備えました。最初は長いと思っていたジャンボリーでしたが、気がついたら最終日を迎えていました。振り返ってみると、ジャンボリーの日々は非常に濃い6日間でした。ジャンボリーのたくさんの感動、ありがとう！ お疲れ様でした！



キツネ班



イーグル班



ウマ班



ひよどり山キャンプ場近くのバス停で八王子駅行きのバスを待ちました。八王子駅到着後は各自の帰路につきました。

ジャンボリーサマー2022の夏キャンプ

中野8団ボーイ隊副長 小倉知樹

中野8団ボーイ隊の夏キャンプは、8月9日から14日までの5泊6日、東京から片道2時間ほどの長野県信州高遠青少年自然の家のキャンプ地で開催し、18NSJの「ジャンボリーサマー2022」として、東京連盟の18NSJネッカチーフを着用しました。標高はおよそ1,200メートル、東京の猛暑とは異なり、活動しやすい涼しい場所で、実に3年ぶりの夏キャンプの実施になりました。

参加スカウトのうち、夏キャンプの経験者はわずか2名で、その他は上進後初めて長期キャンプに参加するメンバーでした。彼らが夏キャンプ以前に実施したキャンプは長くとも3泊だったため、体力的・精神的にハードルが高く、キャンプ生活に関するノウハウの不足が心配で、事前の班会議・班集会ではいつも以上に念入りな準備をしました。

まずは初日の設営と、それに付随するウッドクラフト。テーブルや雨除けのフライ、かまどは既設のものを使用しましたが、食器炊具を乾燥させる棚を作成しました。毎食後に乾燥棚を活用し、普段は散らかっているテーブルを整理する様子も見られました。キャンプ生活中は“不便なところを放っておかない”、“自宅での生活を思い出しながら整理、整頓、掃除する”を意識し、すき間時間にもテントや乾燥棚をメンテナンスする姿が見られました。

キャンプ3日目は、朝から登山へ出発。地図とミッションが記された指令書を受け取ったスカウトは、班員全員で協力してルートを発見後、出発しました。キャンプ場から直線で3.5キロの守屋山（東峰）までは、急勾配のアップダウンが待っており、全行程の3分の1の時点で想定を1時間遅れる事態に。帰着時間を考慮して登頂を断念しようかとリーダー陣は不安でしたが、ここからスカウトは緩やかではない登り勾配にも関わらずタイムロスを挽回し、登頂を果たしました。ゴールに戻ったスカウトの表情には疲労が見えましたが、歩き切った達成感を浮かべていました。

4日目はキャンプ場内にて技能ポイントラリーを行いました。スカウト達は、“君たちはタイムスリップした！スマホやガスコンロは使えない！”と強引なストーリーを話すリーダーに半笑いを浮かべていましたが、いざスタートすると、手旗信号でのメッセージ送受信、簡易計測による測量、コンパスと歩測を使った宝探し、火起こしゲームの次々に4つの技能ラリーに挑みました。スカウトそれぞれに得手不得手がありますが、お互いに分からない所を教え合い、苦手な事にも挑戦するスカウトが見られました。

5日目にはカブ隊がボーイ隊サイトを訪問。自慢のテントや乾燥棚を紹介し、ボーイ隊のキャンプ生活をスカウト自身がプレゼンしました。憧れや興味を持つカブスカウトに、さらなる夢をプレゼントできたかな？

夜にはカブ隊と合同でキャンプファイア。台風の雨風が予想されたためキャンドルファイアとなりましたが、それでも大勢でのキャンプファイアは大いに盛り上がりました。

自宅を離れ、初めての地での1週間にわたる野外生活。各スカウトが今までにないほど多くの経験値を獲得し、大きくレベルアップした夏キャンプになったはずです。私は引越しの都合で隊を離れて5か月振りの対面でしたが、頼もしいスカウトへの成長を感じました。



林の中で朝礼



火起こしゲーム



信州名物五平餅づくり



カブ隊へ班サイトをプレゼンするスカウト



ハイキング指令書でルートを確認



守屋山に登頂



中野 1 1 団ボーイ隊・ベンチャー隊

ボーイ隊 スカウト6名、指導者3名 計9名
ベンチャー隊 スカウト3名、指導者1名、計4名

私たちは、8月9日～8月12日に、新島羽伏浦キャンプ場でサマージャンボリーに参加しました。

船泊や海水浴を楽しみ、夜はスカウト・OWN・サービスや花火を行いました。

台風8号の影響で途中帰宅を余儀なくされてしまいましたが、それもよい経験になったと思います。

杉並 3 団・杉並 5 団ボーイ隊

杉並 3 団 スカウト5名、指導者1名、計 6名
杉並 5 団 スカウト8名、指導者2名、計10名

杉並 3 団と 5 団は合同で、8月5日～ 8月10日、山梨県の昭福荘キャンプ場でジャンボリーサマーの夏キャンプを実施しました。

パイオニアリングやハイキング、花火見学や大営火と盛りだくさんのプログラムを楽しみ、ジャンボリー大集会はYouTubeでライブ視聴。

6 日間で友情と自信を深め、スカウトが大きく成長したキャンプとなりました。



杉並 1 3 団ボーイ隊

スカウト6名、指導者4名、計10名

8月9日～8月14日、山梨県大月市の河野園にて、ジャンボリーサマーとして夏キャンプを行いました。

日本一プログラムの班旗立てと火起こしに挑戦し、班旗立てでは好記録を出すことが出来ました。

キャンプ中には1泊2日で釣りセンターに出かけ、早朝から釣りを行いました。最後の夜には、団合同でキャンプファイアを行いました。

